



新年、明けましておめでとうございます。

2011年の幕開けです。今年はどんな一年になるのでしょうか。個人的には、残り半年となった地デジカ(鹿)のご活躍が気になります。皆様、もうお済ですか？！

第3回目は足立区にある通所介護事業所、千住大川デイサービスセンターの小林所長をお伺いしました。

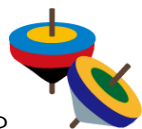
栗原 出身地やら前職やら、かいつまんでお願いします!!

小林 出身は北海道の釧路ですが、大学(美大)を京都で過ごし、就職と同時に東京に来ました。前職はデザイナーです。一日中机に向かってネクタイやスカーフをデザインしていました。



栗原 デザイナーだったんですか!! どうして介護業界へ転身されたのですか?!

小林 縁があったんですね。導かれるような、不思議～(笑)な成り行きでここに来ました。もともとお年寄り好きだったのですが、ある日会社帰りに、よろよろのおじいちゃんが階段にいたんです。思わず一緒に手をとって階段を降りました。そのときのおじいちゃんの、手を握る力がすごくて・・・。“年をとるって大変だなあ”とはじめてリアルに実感しました。



栗原 そこではじめて介護職を意識したのですね。すこやか福祉会はどうして知ったのですか?

小林 広告を見てボランティアを始めたのですが、そこで知り合ったのが当時、柳原病院の看護婦長だった星野さんです。そこから看護助手として(柳原病院で)7年くらい働きました。早朝出勤がきつかったり、出産もありましたが、星野さんや周りの看護師さん達がすごく親切で助けられました。ヘルパーの資格もこのとき取得しました。

栗原 はじめは医療現場にいらしゃったんですね。そこから介護職を希望されたのですか?

小林 星野さんが以前の私の希望を覚えていてくれて、ある日、「施設に興味あったわよね?新しく開設するデイでやってみない?」・・・ということで8年前の開設当初からここで働いています(笑)

栗原 看護職から介護職に就いてみて、どう感じますか?

小林 (介護職は) “やってあげることが必ずしも親切ではない” ってことを学びました。やらないで見てることが難しく感じる時もあります。ずっと(自分には)向いてないと思っていたけど、8年経ってようやくこの仕事でよかったなあと思います。



栗原 千住大川デイの特徴を教えてください。

小林 職員の出入りが少ないことかな。開設時からの職員も多く、利用者さんからも同じ顔ぶれで安心できると言われます。もちろんそれがよくないこともあるけど、職員同士が遠慮なく注意しあえるのはいいところですね。

栗原 ここは住宅街の真ん中で、ザ・下町のあたたかい雰囲気を感じられる場所ですね! でも駅からは遠いような・・・

小林 そうなんです!! だから通勤は雨でも風でも台風でも、毎日自転車です。これが健康の秘訣かな(笑)

栗原 最後にお正月らしく!? 将来の夢!? をお聞かせ下さい。

小林 「山にこもって陶芸がしたいなあ(笑)」

インタビューを終えて



ものづくりが大好きという小林所長。レクリエーションももしろい企画が色々あるようで、私も一緒に参加してみたいなりました! 天職やターニングポイントは、自分と正直に向かい合っていれば自然に引き寄せられるものだと思感しました。

インタビュアー: 栗原 つむぎ



みんなでつくれた 介護活動交流集会開かれる

『立ち上げれ介護人!!』

つくろうそれぞれの居場所

このスローガンをもとに今年の介護活動交流集会も無事に開催することができました。今回から仕事の合間に少しの時間だけでもたくさんの人に参加してもらおうと午前・午後と分けて行いました。開催にあたっては様々な意見もありましたが、参加しやすかったなどの意見も多く、去年より多い126名の方に参加して頂くことができました。

午前の部の記念講演では、毎日新聞論説委員の野沢和弘さんにお話しして頂きました。「現場には常に高齢者、障害者への権利侵害の芽がある」という言葉がとても印象的でした。普段当たり前のことと思って行っていることが介護者の思い込みで、実は権利を侵害している可能性があるということを改めて考えさせられました。

午後の部の演題発表では今年も様々な事業所の方から発表して頂きました。たくさんの方から質問もあり内容の濃い演題発表だったと思います。

今年の介護活動交流集会はスローガンを実行委員だけでなく、皆様と検討したり、いかんか通信で新たに交流の架け橋というコーナーを設けたり、「交流」という言葉を中心に、もっとみんなで立ち上げよう、介護を広げていこうという思いですすめてきました。皆様からの沢山のご意見、ご協力があって実りある集会を行うことができたと思います。ありがとうございました。

来年も、素晴らしい介護活動交流集会を楽しみにしています。
実行委員長 柳田 望



『炎帝の日本列島わしづかみ』

小山さん



小山さんは、毎日1句創作することをご自身に課せられ実行されているそうです。趣味からはじめられ約25年、平成20年には結社から推薦され俳人協会に登録、現在は俳人として創作活動をされています。昨年の「猛暑」を歌った上の句は、昨年7月23日、『朝日新聞』（朝刊）【天声人語】に掲載されました。世界一短い詩と言われる俳句の魅力、読み手の心に迫ってくるようです。これからも素敵な作品をたくさん創ってくださいね！

ファミリーケアあおと 守田 洋

デイレク

デイサービスセンターすこやか

《私達は画伯ですよ! ゲーム》



今回ご紹介させていただくのは、こちらです。
まずは写真をご覧ください。



見事な美女の絵ですね。この人物画は「デイすこやか」の職員を描いたものです。さて、どうやって描いたかという、横一列に座っていただき、各パーツ毎に少しずつ描いていただきます。例えば最初の方には右目だけ、次の方には鼻を、その次は…というように進めていくと、こういった特徴のある豪快な作品が完成するのです。なかなかの個性が集結した作品が完成したのではないかと、思います。

デイサービスセンターすこやか 中村 友樹



アトリエ

ファミリーケアあおと

『世界一短い詩』

小山さん